令和８年度 第１回＜学校運営協議会＞ 議事録

Ｒ８年５月 13 日（水） ９:00～　場所：城北分校司会：副校長（吉澤）　記録：教務（野末）協議会前

副校長：議案書表紙の写真紹介

１　開式の言葉 （副校長）

浜北特別支援学校城北分校。４月に本校移管。学校教育として大きな変化はなく、狙うところは同じ。共生教育 地域の中でともに 工高生とともに学んでいく。

２　校長挨拶（本日本校で執務）

３　委員の委託（校長：代理副校長）　※各委員の方に任命証を授与

＜委員＞

運営協議会	氏名	ふりがな	役職等
1	鈴木　修 様	すずき おさむ	NPO 法人くらしえん・しごとえん代表理事
2	田中　敏美　様	たなか としみ	元 城北分校副校長
3	中川　勝夫　様	なかがわ かつお	住吉自治会長
4	濱野　博	はまの ひろし	スズキ株式会社人材開発本部人事部新卒採用課
5	相澤　江里　様	あいざわ えり	浜松城北工業高等学校 PTA 副会長
6	吉田　麻矢　様	よしだ まや	本校 PTA 会長

＜庶務＞

	氏名	ふりがな	役職等
	春田 美賀子	はるた みかこ	浜松特別支援学校長
1	吉澤 奈々絵	よしざわ ななえ	城北分校副校長
2	五十嵐 正広	いがらしまさひろ	高等部主事
3	野末 麻希	のずえ まき	教務課長
4	鈴木 将宏	すずき まさひろ	進路指導課長

４　自己紹介

鈴木　修 様	くらしえん・しごとえん代表 私立高校 20 年 ジョブコーチ 20 年少しでも力になれば
田中　敏美　様	城北分校２代目副校長５年間務めた城北分校運営協議委員５年目 浜みの学校サポーターとして活動中
中川　勝夫　様	４月から自治会長 保護司

濱野 博 様	普通高校卒業新卒対応業務をしていた。 スズキは１万７０００人中４００名障害を持つ方が働いている。
	特例子会社スズキ・サポート。新しい設備を設立等、動いている。
相澤　江里　様	高３、高１のお子さんが工高に通う。 グループホーム管理者をしている。
吉田　麻矢　様	高２ 将来の就職に向けて、生き生きと通っている。 学校の後押し、うれしく思う。
春田　美賀子	
吉澤　奈々絵	副校長　２年目　やりたいことがたくさん。目指せ５年（敏美先生）
五十嵐 正広	高主事 分校７ 年目最長 校内では一番長い。何かあれば教えていただきより良い学校作りをしたい。
野末 麻希	本年度異動
鈴木 将宏	進路２年目

５　本会目的の確認（副校長）

学校運営を一緒に考えていく場である。前年度より共生教育にスポットを当てた。その時の時事に合わせて協議等考えていきたい。

６　会長・副会長の選出　（規則の第 14 条に基づく）　会 長：鈴木 修 様

副会長：田中 敏美 様

以降、司会：修会長　記録：教務

７　令和８年度学校経営計画「目指す学校像」の説明、意見交換、承認（別紙参照）　副校長より別紙「学校経営計画書」をもとに説明した。

前年度からの違いとしては、個性…強みだけではなく、ウィークポイントも認められる人になってほしい。「えがお」ウェルビーイングの学校づくりを目標にしている。

ア＜安全・安心＞

災害がいつどこで起きてもおかしくない。自分で考えて、自分で対応できる生徒になってほしい。人が集まってきたときに、自治会や工高と協力し合って自助できる姿。

イ＜授業力・専門性＞　ウ＜連携・協働＞

城北工高もチームの一つエ＜チーム・信頼＞

後ほど。コンプライアンス委員会につながっている。

＜御意見、質問、感想＞

修　：第一回目の今回は動き出していないので、一言ずつ感想等いただく。

田中：学校が変わったことで多少は違うか。今年から都田小学校運営委員を引き受けた。都田小学校は３つのスローガンが開校１００年から変わらず。現代に合っていないかというとそうでもない。子供たちの柱。考えさせることが大事。中川：自治会の

立場で、力を入れたい。毎年 11 月に住吉の作品展にも作品を出してもらっている。御協力を。

濱野：会社の目標 毎年決められ、毎年変わっていく。学校も同じだと 学びになった。経営利益を上げていくのはもちろん、社内の対話を増やしていくことも目標である。対話とは双方向の意見を取り入れ新しいものを生み出していく。対話がしっかりできる方や相手の意見を聞ける従業員が活躍している印象。

また、安心安全が第一であることは弊社も変わらず。一方で、予想外の不備はある。毎年作り変えるということに共感する。

相澤：遠くから通われている印象。どこから？ →湖西、三ケ日、浜北

皆さん公共交通機関ですよね。クラスは何クラス？男女比は？など、隣にありながらも知らないことが多い。本校移管も HP で知った。自分から働きかけないとわからない情報も多い。

→27 人３学年、男子多い、三ケ日のバスは 分校・工高生一緒のバスに乗ってきている。

吉田：子供にとって、憧れの学校だった。いろいろ見学に行ったが生徒さんが一番キラキラしていた。弱みを理解して…というのが、親としてもすごく思う。相手にウィークポイントを伝えることで、加減をしてく。強みと弱み、両方認めてもらえるのがうれしく思う。

修： 高校３年間。コロナをどこで過ごしたか、が大きくかかわっている。かかわりのベースがない子が、職場で影響出てきている。メンタルを崩したときの相談相手がＡＩの時代。ＡＩは悪く言わない。対話の重要性を感じる。

また、先生方のサポートになることの重要性を感じている。

・令和８年度学校経営計画について、承認された。

副校長：本日サービス班がお茶をお出しした。本日は喫茶サービスの学習も見ていただく。

・休憩後、校内参観 9:50～

８ 熟議『共生・共育～地域と、地域で～』

副校長：前年度文化祭では３階の教室を借りた。人がたくさんくるだろうから、と、考慮いただいた。集客並びの良い状況でさせていただいた。PR ブース

他にも、最初は掲示スペースを借りられないかということで相談したところ、デジタルサイネージといってテレビに写すことが可能と言うことでお話をいただいた。それから作業製品のモニター会議があって、工高生徒に使っていただいた。地域の中でも、御紹介があった芸術作品展に出している。地域の方には、各々すごく長けた方もいらっしゃるかと思う。アイデアをもらえること、小さなことからでもできるとよい。またよろしくお願いします。

吉田：金属加工班で、生徒同士で、「これやらないと危ないよ」などの声を掛け合っている場面があった。三年生の先輩が新入生に教えるのかなと思い、こそっと聞きに行ったら、二年生だった。この４月からこの班になったばかりとのこと。その子が、

「安全が何につけても一番大事です」と語ってくれた。資料の一番上にあった「安全」が浸透していると思うと共に、これが城北なのよって、一人で盛り上がった。
　城北工高さんとの交流については、製品のモニターをやってくれていたというところも、今お話を伺って、いいなと思った。生徒同士レベルでの交流ができると子供達にとってはすごく自信につながる。同じ敷地内にいるというところで、絆が強くなるのかな。PTA としても知恵を絞りたい。

相澤：すごく品質が高い。設計なり、いろんな手順の表など目で見てわかりやすい教材がある。１～３年が一緒の教室でしたが、先輩が誰かだいたい分かりました。先輩のところにチェックお願いしますだとか報告に行く関係ができていた。三年生は三年生らしく、一年生は、まだ手元がおぼつかない感じですが、先輩に聞きに行くことで、交流がすごく深められているのは感じました。

濱野：　ＰＤＣＡサイクルだとか、文化祭というゴールへ向かう製品作りっていうのが大きく目標になっている。チームで1～最後まで体験する学びをしている。スズキでは、どこかのセクションを担い、狭く深く仕事をする。作業の全部を知ることで、実際の仕事で前後の工程の方に目配りができる人になる。城北分校の生徒たちは明るくて真剣で愛嬌がある。人のキャラ魅力的である。

中川：作品も丁寧に作られている。手順守って、けがの無いようにやっている。自治会でもたくさんＰＲしてあげられたらよい。

田中：作業するために毎回準備しなければならないのはかわいそう。企業では常にセットされているので。また、人のところを横切るときには、声を掛けるなど、会社がやっているところはとりいれるとよい。
過去、体育大会の中で校旗掲揚をする。生徒会同士のつながりができた。向こうからいろいろ提案してくれた。メリットがあることをこちらから提案していく必要もある。

修　：掲示物に人との距離の取り方とあった。仲良くなっても人付き合いのマナー面、学校でこれはダメときちんと学ぶ。本人に落ちるような形で学ぶことが、大事。現場でも、弱いところ、ダメなところをうやむやにしない。本人にとって苦手なところは指摘されるところ。良いところを伸ばすことも大切にする、弱さもその人自身。
強さ弱さも全部ひっくるめて…ということがすごく大事。
生徒会同士の繋がりの例では富士東分校。開校から学校運営協議会に携わり３年たった。昨年３学年揃った。学校を作る最初から、生徒会同士がどういう活動をするか話し合っていた。新しい分校なので、城北分校ができた頃からもう随分変わっている。
城北分校も歴史を重ねてきているので、その中でどうして行くのかってすごく大事。
例えば卒業式では、分校の作業学習の中で、コサージュ等高校の生徒たちに作ってあげるだとか、日常的なものとか。相手にとっても臆することなく、具体的な形で面白いアイデアがあるか。

子供たちが自分たちの地域戻っていくかどこに生活の拠点を置くか。差別や偏見は圧倒的にある。

五十嵐：卒業してから実際に遭遇する場面 設定してかなければならない。
開校当時は工業さん積極的だった。今、落ち着いてきた。新しい提案もう一回火をつける活動をしていくか。

将宏：会社の中でやっている良いところを、授業の中でやっていきたい

濱野：就職を考えたとき、学校という中では会社の目線はなかなか気が付かない。働く現場での良いことをここで学べたら。職場に入ったときにすでに習慣化されていること、安全・健康が一番。安全宣言を出している。スズキは出社後の社内での動きをルール化している。例えば、歩行帯 指差呼称 階段は手すりを持っておりる「ほけてなし」。製造現場ならではのルールを浸透させることで人のイレギュラーの流れがなくなる。

修 ：社会になると決まりがかなり細分化される。
ＰＴＡ同士の話題 やれたらよい。

閉会 田中

次回：10 月 28 日（水）ＡＭ
２月 17 日（水）ＰＭ 13：00 くらい 評価も行うため少しお時間いただく